

資源高や利下げ終盤、米銀株は上昇の傾向 適度なインフレ、長短金利差の拡大、関連の資金需要など

(株) ジャパンエコノミックパルス

Japan Economic Pulse Co., Ltd.

info@j-pulse.co.jp

2026/4/27 (月)

米国株はイラン有事や資源高、利下げの各不透明感などが悪材料になっているが、銀行株は資源高や利下げ終盤の局面で上昇傾向が見られてきた。適度なインフレ上昇は投融資先である企業の価格転嫁等による業績下支えや、法人・個人の担保価値安定化（不動産・住宅など）、インフレ警戒と利下げ終盤入りは長短金利差での長期優位拡大につながる。資源高は関連業界の生産・設備投資増強や、他業界の省エネ対応といった資金需要を増加させる。日本市場では銀行株やドル/円でのドルの下支え要因となりやすい。

商品高や利下げ終盤、米銀株は前年比+20-40%

「(4月前半段階の米国株市場では) 中東情勢の緊迫化やプライベートクレジットを巡る懸念が市場を揺るがすなか、米大手銀行株は2023年以降で最悪の出足となっている」、「ただし今後の決算発表次第では、割安感のほか、直接貸出・金融資本市場・規制緩和といった分野での強いモメンタムを背景に、長期投資家にとって買いの機会となる可能性もある」――。

ブルームバーグは4月13日、アナリストのコメントを交えてこのような指摘を行っている。その後の米銀大手の決算発表では、金融市場ボラティリティ（変動率）の高まりを受けたトレーディング収益の改善や規制緩和などにより、良好な内容が示された。

それでも現在の米国株市場では、イラン有事や資源高、FRB 利下げの各不透明感などが悪材料として覆っている。その中で米銀株については、過去に資源高や利下げ終盤、利下げ停止の局面で上昇の傾向が見られてきた。今回も米銀株の先高余地は無視できない。日本市場では銀行株やドル/円でのドルの下支え要因となり得る。

米国内での資源高等による適度なインフレ上昇は米銀にとり、投融資先である企業の価格転嫁等による業績下支えや、法人・個人の担保価値安定化（不動産・住宅など）に作用する。同時にインフレ上昇懸念と利下げの終盤入りは、米国債市場で短期金利が低位安定化となる一方、長期インフレ期待の高まり等が長期金利を上振れさせ、長短金利差での長期優位拡大につながる（銀行は利ざや改善のプラス面）。

直近の米指標では4月23日、最新4月分のS&P総合PMIで製造業の活動ペース拡大が示された。原材料等のコストは上昇したが、企業は迅速な価格転嫁を行っており、販売価格指数は2022年7月以来の高水準に上昇している。

先行き資源高は関連業界の生産・設備投資増強や、他業界の省エネ対応といった資金需要を増加させていく。目先FRBは先行き利下げ終盤入りや利下げ停止の可能性はあっても、利上げの引き締め局面入りは尚早だ。米国の経済や銀行にとっては、まだ下振れリスク回避の「モラトリアム猶予期間」が残されている。

米国の代表的な銀行株指数・KBW 銀行株指数でいえば過去のこうした局面で、月間高値の前年比が最低でも+20%から+40%は上昇となるパターンが観測されてきた。現在も国際商品市況であるCRB指数は月間高値の前年比が、2月の-1.2%というマイナスから、3月は+20.4%、4月は23日段階で+21.8%という急反発に転じている。連動でKBW指数の前年比は、3月の+18.0%から4月は+39.7%の上昇となり、過去実績が踏襲されつつある。

米国の長短金利差でいえば、10年債-2年債の金利差は日中の終値比較で、直近4月23日は+0.491%という長期の10年債優位となった。最近ではイラン有事もあり、2月の+0.73%超えを直近最高として縮小傾向にあったが、3月26日の+0.426%を最低ボトムとして縮小一服となっている。月末値比較の長短金利差では、トレンドを示す12カ月移動平均などで「10年債の上振れ優位」基調が維持されている。

米国債市場では、より長期スパンでのインフレ期待や成長期待の高まりを示唆する形で、長期債比較の「30年債-10年債」金利差で、より長期の30年債が上振れ優位となっている。財政赤字懸念といった悪い上振れも含まれているが、過去は米国での利ざや改善と米銀株の上昇を支援してきた。

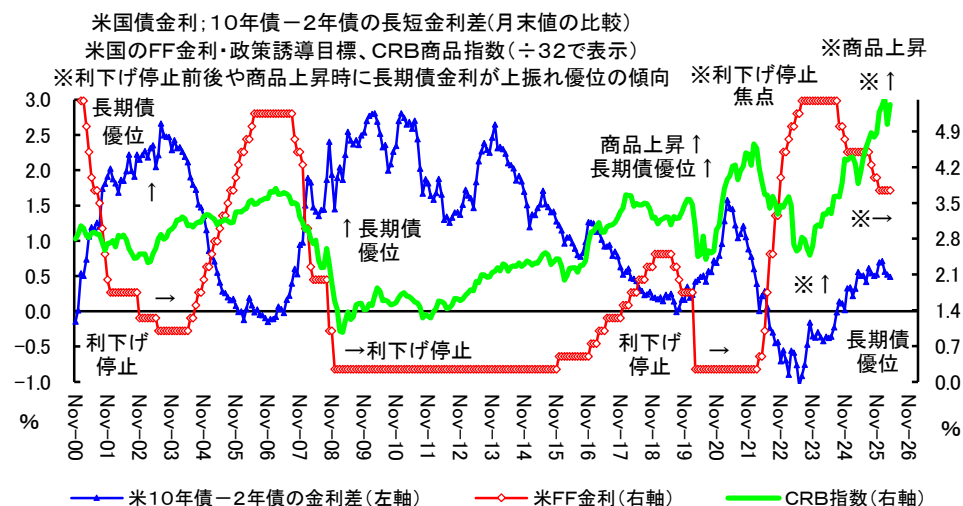
米銀株指数170超え、ドル/円は時間差含め連動

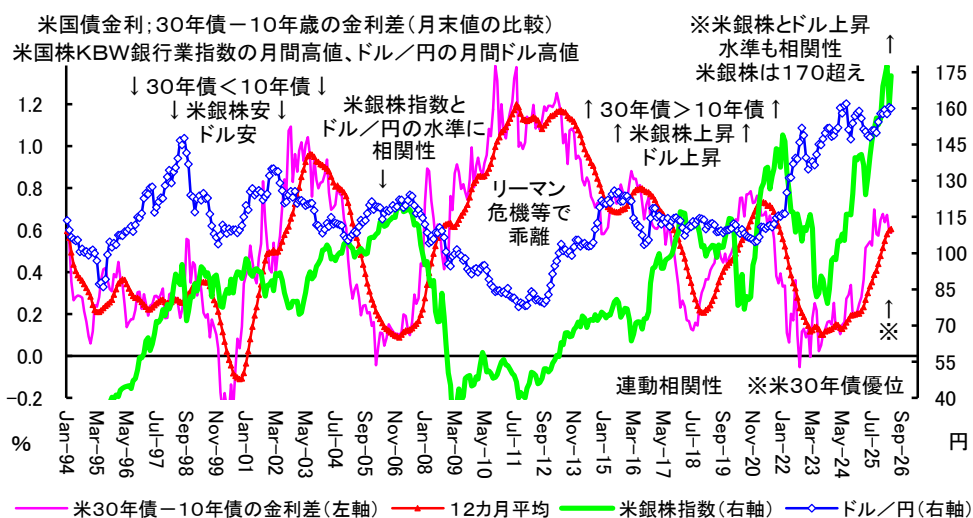
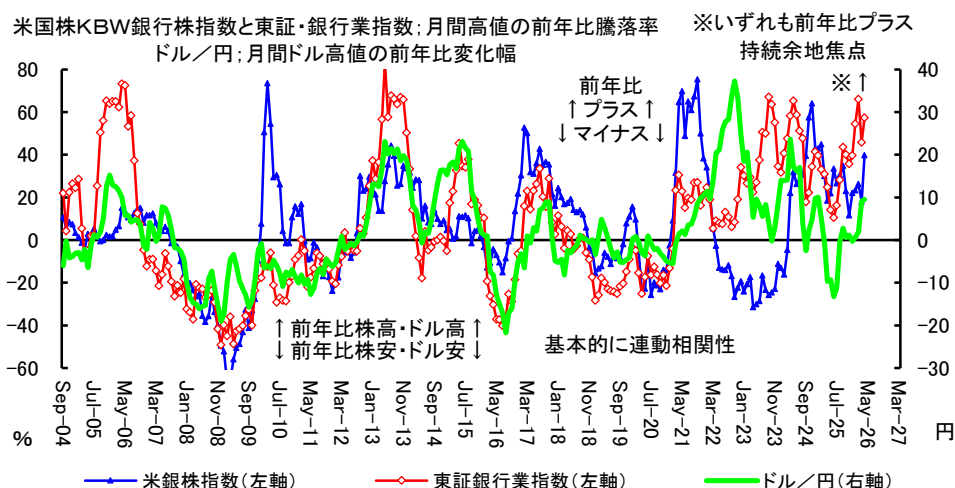
KBW 銀行株指数には米国の主要な大手銀行と地方銀行の銘柄が含まれており、米国の経済状況や金利水準などと一定の相関性を有している。その点で為替ドル/円とのドルとも数値の水準レベルが似通っており、時間差ケースを含めて連動実績が見られてきた。

とくに日本で1990年代以降のバブル崩壊混乱と不良債権問題、金融不安が一段落となってきた2003-2005年以降は、KBW指数が先行で高値を更新しても、ドル/円は時間差を経て、追従で同じレベルに追い付くパターンが繰り返されている。

現在の場合、KBW指数は直近の高値が2月の177と過去最高値を更新し、足元4月の高値は173となっている。ドル/円に先行する形で今年1月以降は、過去初となる160の節目を持続的に上抜けてきた。

米国では資源高の対応策としてトランプ米大統領が4月20日、対イラン軍事作戦に伴う原油などの供給停滞を受け、エネルギー関連製品の生産強化を命じる覚書に署名した。米政府は財政支援や規制緩和などでバックアップし、原油や石炭、液化天然ガス（LNG）、電力網インフラなどの分野が対象となる。直接的・間接的な派生分野を含めて、生産や設備投資の増強と資金需要の増加につながる余地がある。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。